

⑨ 日本国特許庁(JP)

⑩ 特許出願公開

⑫ 公開特許公報(A) 平4-89970

⑤ Int. Cl.⁵
E 04 G 23/02識別記号 庁内整理番号
A 8504-2E

④ 公開 平成4年(1992)3月24日

審査請求 未請求 請求項の数 1 (全2頁)

⑭ 発明の名称 劣化コンクリート柱・梁の補強方法

⑮ 特 願 平2-203489

⑯ 出 願 平2(1990)7月31日

⑰ 発 明 者 高 森 貞 彦 東京都千代田区富士見2丁目10番26号 前田建設工業株式会社内

⑰ 発 明 者 梨 本 裕 東京都千代田区富士見2丁目10番26号 前田建設工業株式会社内

⑰ 発 明 者 森 田 篤 東京都千代田区富士見2丁目10番26号 前田建設工業株式会社内

⑰ 出 願 人 前田建設工業株式会社 東京都千代田区富士見2丁目10番26号

⑰ 代 理 人 弁理士 藤 井 実

BEST AVAILABLE COPY

明 細 書

1. 発明の名称

劣化コンクリート柱・梁の補強方法

2. 特許請求の範囲

1) 予め硬化剤を含浸させたテキスタイルをその硬化前においてコンクリート柱・梁の周囲に巻き付けた後、硬化させることを特徴とする劣化コンクリート柱・梁の補強方法。

3. 発明の詳細な説明

「産業上の利用分野」

この発明は、クラックが発生したり表面が劣化した劣化コンクリート柱・梁の主として一時的な補強方法に関するものである。

「従来の技術」

従来、コンクリート柱・梁にクラックが発生した場合、これに浸透性の固結剤を注入することにより補強する方法、あるいはコンクリート柱・梁の表面が劣化した場合、劣化表面をハツリ取った後モルタル等で整形することにより補強する方法が知られている。

「発明が解決せんとする問題点」

クラックに固結剤を注入する方法では、固結剤を内部まで浸透させねばならないためその手間と時間を要し、きわめて能率が悪いという問題があり、また表面整形方法では表面のハツリを要し、これまた手間と時間を要するなど作業性上問題があった。

「問題点を解決するための手段」

この発明は前記従来の課題を解決するために、予め硬化剤を含浸させたテキスタイルをその硬化前においてコンクリート柱・梁の周囲に巻き付けた後、硬化させるようにした劣化コンクリート柱・梁の補強方法を提案するものである。

「作用」

硬化前のテキスタイルはフレキシブルであるため、きわめて容易に柱・梁に巻き付けることができ、簡単かつ短時間で補強作業を行うことが可能となる。

テキスタイルの硬化剤が硬化後は、クラックが発生したり表面劣化した柱・梁の表面の剛性

が増し、確実に強化することができる。

「実施例」

以下この発明を図面に示す実施例について説明すると、クラックが発生したり表面が劣化したコンクリート柱・梁1の劣化部周囲に、予め硬化剤を含浸させたテキスタイル2をその硬化前において巻き付けて硬化させる。

本発明に用いる硬化剤としては、医療用ギブス等に用いる速硬化性の水溶性硬化剤等、速硬化性で手軽に取り扱える水溶性の硬化剤の剛性の高い硬化剤が望ましい。

テキスタイル2は、劣化の状況に応じて多重に巻き付けることができる。

「発明の効果」

以上の通りこの発明によれば、硬化前のテキスタイルはフレキシブルであるため、きわめて容易に柱・梁に巻き付けることができ、簡単かつ短時間で補強作業を行うことが可能となる。

テキスタイルの硬化剤が硬化後は、クラックが発生したり表面劣化した柱・梁の表面の剛性

が増し、確実に強化することができる。

4. 図面の簡単な説明

第1図はこの発明の施工状態を示す斜視図である。

1・・・コンクリート柱・梁。

2・・・テキスタイル。

特許出願人 前田建設工業株式会社
代理人 藤井 実

BEST AVAILABLE COPY

第1図

